

平成27年度 東京都立東大和高等学校経営報告

1 めざす学校像

「進学・部活・情報の大和」（大和は夢の実現を支えます）のスローガンを掲げ、全人教育の視点に立ち、教育目標に基づき、教職員一丸となって、特色ある教育活動を展開していく。めざす学校の姿は以下の6点である。

- (1) 一人一人の夢の実現を力強く支援する学校
- (2) 特別活動や部活動等の体験を通して、人間としての力を高めていく学校
- (3) すべての部活動で「都立の星」を目指す学校
- (4) 帰属意識と活気に満ちあふれた学校
- (5) ICT能力（情報の収集、活用、表現）を高めさせる学校
- (6) 地元の期待に応え、地域から愛される学校

2 平成27年度を取組と成果の概況

平成27年度学校経営計画および自律経営推進予算編成に基づき、計画的で組織的な取組を進めることができた。

文武両道の精神のもとで、全人教育を目指す本校は、創立以来独自の特色を維持している。ここ数年は「地元の期待に応え、地域から愛される学校」を目指す学校の姿に加え、東大和市教育委員会や地域との連携が活性化し、地域からの期待も高まってきた。今年度もWebページの充実・更新、部活動成果の発信や学年通信の発信、ツイッターによる発信により広報活動を充実させた。学校説明会や中学訪問、体験入部の充実、自転車マナー指導の強化、地域と連携した教科「奉仕」の定着なども成果をあげた。中学生を招いての体験入部は今年度も多摩地域全域に呼びかけ、年間約350名以上の参加を得た。基礎学力の定着と学力の向上をめざし、「わかる授業」と学力スタンダードに基づいた組織的な対応や補習・講習の実施、平成26年度に実施した週末課題検討委員会による週末課題の検証に基づいた取組を行った。また授業改善に向けた取組として平成26年度から取り入れた一人年間2回以上の相互授業参観と中学校と授業参観を引きつづき実施した。入学時からの意図的計画的なキャリア教育の実践もより体系化が進んだ。小論文指導では、1年3学期からの計画的な取り組みが進んでいる。啓発指導と実践的指導が融合し、進路実現への意識の向上により過去最高の実績となった。英検や漢字検定指導も継続して実施しており英語検定については昨年度よりは成果が上がった。また、今年度は全国高等学校書評合戦東京都大会において本校2年生が決勝に進出した。さらに体力テスト結果は1年生男子の握力以外はすべて全国平均を上回るという素晴らしい結果であった。部活動においては、東京都教育委員会からスポーツ特別強化「陸上競技（男女）、ハンドボール（男女）、硬式野球（男）」として3つの部が指定を受けた。また、顧問と生徒が一体となって充実した活動を展開し、学校全体としては昨年度に引き続き大きな成果を上げることができた。特に陸上競技部はインターハイに3種目出場、日本ユース陸上競技選手権大会と日本室内陸上競技大会に2名出場するなど

①組織的・計画的な展開の定着

長期休業中補習・講習、週末課題、小論文指導、読書感想文コンクール、実用英語検定、漢字検定、自転車マナー指導、都立の星を目指す部活動指導、部活動地域清掃、部活動中学・地域連携、キャリア計画に基づく進路指導、学力スタンダード実施・活用、キャリアガイダンスの実施、美化活動全般、地域清掃、セーフティ教室、生徒募集・広報活動、中学訪問と各種説明会参加、文化スポーツ特別推薦外部講師による各種講演会、公開講座、規範意識向上に向けた生活指導、体験入部、「こころの悩み」への組織的対応（スクールカウンセラーの活用）、ICT機器活用授業

②組織的展開の開始

教員相互の授業参観・研究授業による授業改善、教科会の定期的な開催による教科指導の充実・補習、図書館の活性化、特別支援教育委員会による特別支援教育の推進、新たな形の共有会の実施

③個別の努力の継続

部活単位の補習

の成果をあげた。吹奏楽部は、日本管楽合奏コンテスト全国大会優秀賞受賞、東京都高等学校吹奏楽コンクールで初となるBⅡ組招待演奏、木管八重奏が東京都高等学校アンサンブルコンテストで代表に選出され東京都アンサンブルコンテストに初出場した。また、女子テニス部とソフトボール部が関東公立高等学校大会に出場した。これらの取り組みと成果により、めざす学校の姿としての「一人一人の夢の実現を力強く支援する学校」「特別活動や部活動等の体験を通して、人間としての力を高めていく学校」「すべての部活動で「都立の星」を目指す学校」「地域の期待に応え、地域から愛される学校」にさらに近づくことができた。

表彰関係では、東京都教育委員会から「平成27年度子供の体力向上推進優秀校」として表彰された。本校にとっては平成23年度に続いて2回目の表彰となった。教職員では、平成27年度文部科学大臣優秀教職員表彰受賞者と東京都教育委員会から「Good Coach賞」を2名の教員が受賞した。

今年度から学校評価アンケートの回答に「よく分からない」という回答を設定した。これは昨年度のアンケートに保護者から出された要望に応えるために設定したものである。

3 各領域・分野での取組と成果・課題

(1) 学習指導

【目標と方策】

「わかる授業」と学力スタンダードに基づき教科として組織的に展開し、家庭学習の確保につながる指導を継続することで、学習習慣を定着させ、学力の向上を図っていくことを目指した。そのために、定期的な教科会の開催により教科としての共通理解を図りながら指導計画の作成と評価の工夫・充実に向けた継続的な授業改善を実施した。また、教員相互の授業参観・研究授業、模範授業の参観等を積極的に推進した。授業では、実習、実験、調査、発表等の体験的学習を重視し、生徒に学ぶ喜びを実感させるため、ICT機器を活用した授業を積極的に展開することとした。各教科では資格取得を推奨し、成就感や達成感を体得させ、伸ばす授業を実感させることとした。また、放課後の補習、長期休業中の補習・講習、学力スタンダードで到達目標に達していない生徒への補習等を行うことで基礎学力の定着を図るとともに、進学向け応用学習の支援体制を構築した。また、読書活動を推進し、総合的に学力を身につけさせるため、1、2年生全生徒を対象とする「読書感想文コンクール」を実施した。また、今年度も2学年全生徒を対象としたビブリオバトルを実施したが本校代表となった生徒が東京都大会において決勝に進出した。

【取組・成果・課題等】

生徒の授業満足度は71%（「学校評価アンケート」）であり、昨年の78%より低くなった。約7割の生徒が満足しているが引き続き生徒の授業満足度を高めるための努力が必要である。学校評価アンケートによる保護者への「授業に満足していますか」に対しては肯定的回答が82%であり昨年と同様であった。今後も「わかる授業」と学力スタンダードの目標達成に向け、全教員が各授業のねらいを明確にし、授業内容や進度に応じた教材作成、板書計画や発問計画を作成し授業改善を継続していく。

各授業では、予習の指示、課題の提示を明確に行い、学習の習慣化を図らせるように努めた。また、ICT機器の効果的利用に努め、生徒の興味関心を高めるようにした。合わせて、教科「情報」と他教科の連携を図りながら、情報スキル・モラルを向上させた。全教科でICT機器活用の授業を実施することを目標とし、全教科で活用が定着した。1年次の情報の授業で身に付けたスキルと意欲が、2年次以降のさまざまな教科での発表学習や調べ学習に大いに活用されている。情報科の教員を始めとするICT機器使用授業の教員による積極的な授業公開や校内研修の成果である。

学習を習慣化させるために、今年も1・2学年で「週末課題」に取り組んだ。学校評価アンケート結果から、土曜日・日曜日の家庭学習1時間以上の生徒は20%であり、昨年度の18%より増加した。3年生だけでみると2時間以上が36%となっており、部活動引退後に勉強への切り替えができていると考えている。30分以内の生徒も59%と昨年度の61%から減少しており少しずつではあるが効果が表れてきている。週末課題の回収率は向上して

いるが、個人差が出てきた。継続し成果をあげている生徒と学習習慣の定着が図られなかった生徒に差が生じている。昨年度から週末課題に関する特別委員会を立ち上げこれまでの週末課題の内容、成果等について検討を始めた。今後も工夫・改善に努め、学習の習慣化への継続的な指導が必要である。考査前を中心とした平日や土曜日、長期休業中に補講・補習を41講座実施した。また、部活の練習の合間、考査前の放課後に5つの部が部活動単位の勉強会を実施し、学習習慣の確立に努めた。補習・補講についての保護者の満足度は48%であり昨年の63%から減少している。しかし、今年度設定した「よく分からない」という回答が25%あり、否定的な回答が26%であることから昨年度とほぼ同様であるととらえている。また、今年度もセンターテスト平均点を上回る教科やほぼ平均点近くの教科が複数でてきた。進路決定状況から見ると、補習には一定の効果があつたと捉えている。

身近な取り組み目標として検定を教科活動に取り入れ、学習意欲の向上に努めた。英検、漢検は希望者に対して実施した。今年度は英語検定については受験者・合格者ともに昨年度より増加しており、定着してきたと言える。受検前講習会の実施方法にも英語科と国語科で十分に工夫を凝らし、計画的な実施が成果となった。

課題図書による読書感想文コンクール（第41回）を実施し、読書意欲の向上と図書館の活性化に努めた。感想文の提出者は99%であり、昨年度と同様であった。図書貸出数はここ数年毎年増加しており、今年度は2月末現在で4636冊と昨年度の3388冊を大きく上回った。

これらのことから、教科としての組織的な授業改善への工夫と授業力のさらなる向上による「わかる授業」と学力スタンダードの目標達成と生徒の学習の習慣化や学力の向上は引き続き本校の重要課題である。昨年度から始まった学力スタンダードによる学力の向上が部活動や行事を推進する力ともなることから関連させ重点的に取り組みを進めていく。

（2）生活指導・進路指導・保健指導

【目標と方策】

これらの分野については、全教職員が目標を共有し、指導を進めた。

生活指導では、生活指導統一基準を作成し生活指導の進め方についての共通理解のもと、規範意識を養い、基本的生活習慣の確立とコミュニケーション能力の向上に努めた。生徒相互や生徒と教員間の「あいさつ」を励行するとともに、学校生活のすべてにおいて、「時間を守る」態度を身につけさせ、社会生活の基礎と互いを尊重する心を養うこととした。今年度は、生活指導統一基準に基づく指導に重点をおき、中でも、交通ルールの遵守と自転車通学のマナーを向上させることと、身だしなみを整えることに力を入れた。これらのことを推進し、地域の方々に信頼される生徒を育てることに力点を置いて指導を進めた。

進路指導では、キャリア教育の全体計画に基づいて、進路部と学年進路部の合同会議を軸としながら、組織的に進めることとした。1年時からの系統的な指導を推進し、啓発指導、説明会、大学見学等の進路的行事を充実させ、進学や就職の具体的実現を目指し、教職員が全力で指導にあたった。今年度で5回目となる年度末の共有会は今年度は3学年と2学年の担任だけではなく、全教員を対象として特徴的な生徒数名について具体的な情報交換を行った。次年度の指導に向けて教員間で情報を共有し意識の統一を図った。

保健指導では、生徒が主体的に生涯にわたり健康で安全な生活を営む力を身につけることができるよう、各学年と分掌とが協力して推進した。美化活動を重視し校内美化に努めた。老朽化した校舎を丁寧に使用するため、校舎内外の整理整頓と美化を推進するとともに、ゴミの完全分別とリサイクルの奨励等の環境教育に取り組んだ。また関係機関との協力による保健指導の充実、生徒対象の保健講話の実施や今年度新たに設置した特別支援教育委員会が中心となり教員研修会実施など特別支援教育推進に向けて組織的に取り組んだ。

【取組・成果・課題等】

生活指導では、自転車マナーを中心とする交通安全指導や規範意識の向上をねらいとした指導を生徒部が学年と協力体制を組み、指導強化月間を設けながら、朝の登校指導を年間通じて定期的実施した。特に昨年度から学期初めに近隣の交差点で生活指導部が中心となり自転車指導を実施したことにより生徒の自転車マナーが向上

した。また、ホームルームや全校集会での指導を重ね、生活指導の徹底を図った。この結果、生徒の生活指導のきまりへの理解も深まり、89%の生徒がきまりを理解し、自ら進んで決まりを守ろうとしていることがわかった。

進路指導では、キャリア教育の全体計画に基づいて、計画的に実践した。1年次には、総合的な学習の時間をキャリアガイダンスと位置付け、計画的に実施した。大学見学も全員に実施させながら、講演会も充実し、進路実現意識を高めさせることができた。また、国公立系ガイダンス、卒業生懇談会、分野別ガイダンス、面接指導、小論文指導、模擬試験、図書館活用、センターリサーチなども組織的に推進した。今年度から浪人する生徒に対する再チャレンジの会を新たに実施し次年度の進路実現に向けて応援した。学校評価アンケートによると、「進路について情報がよく提供されていると思いますか」の問いに対し、86%が肯定的回答をしている。一方保護者は76%が肯定的回答であった。このことから、学校の取り組みは成果をあげているととらえることができるが、保護者への情報提供を十分に行う必要があることがわかった。

今年度の進路決定状況を見てみると、現時点での進路決定者は90%である。内訳は、四年制大学60%、短大5%、専門学校21%、就職0.3%、公務員1%、浪人等10%となっている。4年生上位校の現役合格者がでたことやMA R C H Iクラスに20名が合格、警視庁・東京消防庁へ4名が合格、都立看護専門学校へ9名が合格するなどの成果をあげている。過去3年間で最高の成果となった。キャリア教育の充実にもない今後も目標を明確に持って進路先を選ぶ生徒が増えることが期待できる。

保健指導では、老朽化した教室や廊下を心をこめてきれいにして行こうと保健部が中心となって美化委員会を指導しながら全校をあげて取り組みを進めた。教育相談活動については関係機関との連携を図るとともに昨年度配置されたスクールカウンセラーを中心とした相談体制を整えた。今年度は年度当初に1年生全員を対象にスクールカウンセラーによる面談を実施した。養護教諭を中心として、生徒対象保健講話も実施した。今年度のセーフティ教室は自転車マナー、交通安全、情報機器の使い方をテーマに3回実施した。また、美化活動については集団生活の基本として重視し、日常はもとより学校説明会や行事などの機会に強化週間を設定して組織的に取り組むとともに、教科「奉仕」の体験活動として1・2学年全体や部活動生徒による「地域清掃」も引き続き実施し、地元の方々から感謝の声をいただいた。また、硬式野球部、陸上部、男女ハンドボール部、男女バスケットボール部は雪かきにより東大和市から善行青少年表彰された。

今後、生活指導では自ら進んできまりを守ろうとする生徒を育成するため、継続的に規範意識の向上を図っていくことが課題となる。また、地域の期待にこたえ、地域から愛される学校であり続けるため、「自転車通学のマナー向上」にも引き続き全職員で取り組むことも必要である。進路指導では全校のキャリア教育の全体計画に基づき、生徒の希望する進路実現を支える組織的取り組みを一層推進していくことが必要である。保健指導では校内美化に全校で取り組むとともに、環境を大切にしていく心を育むなどの環境教育を推進していくことが課題である。また、多様化する生徒の心の悩みに対し、実践的な研修を実施するなど対応力を高めるとともに、外部機関との連携を組織的に実施する体制づくりも課題となる。

(3) 特別活動・部活動

【目標と方策】

多くの体験活動を通して、生徒に自信を高めさせるとともに、協力することの大切さや日々の努力の積み重ねの大切さ等に気づかせ、困難に負けない力を高める等、活動全体を通して、人間的な力を高めさせていくこととした。行事では、生徒と教員の実行委員会の協力により主体的運営を目指した。部活動では体罰根絶の継続と上位大会への進出を目指し、計画的な活動に取り組むこととした。また、地域と連携した諸事業や中学生の体験入部にも積極的に取り組んだ。

【取組・成果・課題等】

学校行事では、生徒の主体性を高めることとし、生徒実行委員会を教員の実行委員会が適切に指導すると同時に生活指導部、学年との連携を強化して運営にあたった。球技大会、体育大会、櫛木祭、合唱祭ともに実行委員の活躍により、充実した行事となった。どの行事もクラスの団結力は見事であり、上級生が下級生を指導する良い機会となった。生徒会活動は、学校行事の推進の一翼を担うとともに、教員の指導のもとに総会や選挙、学校

生活の改善事項など生徒の声を適切にまとめた。また、生徒の感性を高める文化的行事の実施については、教員の委員会により検討、実施が進められた。本物のもつ力にふれさせるため、3年間を見通した芸術鑑賞教室が実施されている。今後も知的・文化的教養を高めることに役立てていく。

部活動では、全員加入を継続し、定着率100%を目指した。学年によっても差の見られるところであるが、およそ99%の定着率であった。生徒の部活動満足度も81%を超えている。生徒は部活動を学校生活の目標として、日々の活動に全力で取り組んでいる。今後も満足度を高める工夫をさらに推進していく必要がある。今年度もすべての部活動で「都立の星」を目指して活動し、各部とも近年にないめざましい活躍ぶりであった。全国大会では、陸上競技部が全国高等学校総合体育大会3種目出場、日本ユース陸上競技選手権大会2種目出場、日本室内陸上競技大会2種目出場、吹奏楽部が日本管楽合奏コンテスト優秀賞受賞、ダンス部が夏の日本高校ダンス部選手権大会全国決勝大会出場などの成果をあげた。また、陸上競技部が春と秋の関東大会に出場、女子テニス部とソフトボール部が関東公立高等学校大会に出場した。吹奏楽部は東京都高等学校吹奏楽コンクールで初となるBⅡ組招待演奏と東京都アンサンブルコンテスト高等学校部門に初出場を果たした。その他男子ハンドボール部がベスト4、女子ハンドボール部がベスト8、男子バレーボール部、男子バドミントン部、野球部がベスト16の成果を残した。

地域との交流事業や中学生の体験活動に関してもとても活発に展開できた。吹奏楽部は、昨年度に引き続き東大和市教育委員会と連携し近隣の中学校と高等学校を対象とする吹奏楽講習会の運営協力をおこなった。陸上競技部は、東大和市内全中学校陸上部120名が参加した講習会の開催や中学生東京駅伝の選手と一緒に合同練習を行うなど地域との交流事業を積極的に実施できた。また、学校の内外に部活の活動状況を発信する掲示板を作成し、情報を共有することで、各部が互いに切磋琢磨する態度の育成に役立てている。こうした部活動の活性化には、スポーツ特別強化校の指定やオリンピック・パラリンピック教育推進校、文化・スポーツ等特別推薦や同窓会、PTAの支援も大きく影響を与えている。教員の日々の地道な努力とこれらが一体となって大きな成果となった。

また、今年度東京都教育委員会から運動部活動顧問を対象とした「Good Coach賞」を2名の教員が受賞した。特別活動は、指導援助の手を休めてしまえば一気に活動が低迷する。引き続き、全教員による生徒への支援が重要である。教員の各行事委員会、クラブ委員会、顧問会議、生徒行事委員会、部長会を軸として、組織的な運営を図り、さらなる活性化を図っていく。

(4) 家庭との連携および地域との交流、募集対策

【目標と方策】

本校の情報を積極的に発信するとともに、関係機関やPTA、同窓会等の協力を得ながら、家庭・地域との連携を一層強化する方策を検討し、地域とともに歩む学校を創出することとした。地域から愛される学校の実現を目指し、地域とのパートナーシップの強化を図るため、Webページの充実と更新、各種通信の発行に力点を置いて、適切な情報発信に努めた。また、今年度は地域の防災訓練に防災活動支援隊の生徒が初めて参加した。東大和市教育委員会との連携を密に図ることで地域とのつながりを強め、さらに組織的募集対策活動を推進し、本校を第一希望とする中学生を多く獲得するよう努めた。

【取組・成果・課題等】

保護者会やPTA運営委員会等の機会をとらえて、学校からの情報を豊富に発信した。体育大会、櫛木祭、合唱祭、ロードレース大会等では積極的なPTAの支援を受け、生徒に落ち着きと安心感を抱かせることができた。

学校からの情報発信をこまめに行なうため、Webページの充実と更新やツイッターによる発信に力を入れた。更新回数は399回となった。部活動の盛んな本校の特色を発信するため、大会結果や大会予定等を発信する各部活動のページの充実を図ることで、部活ページの閲覧回数が増えた。また、校内の様子を伝える「校長通信」は231回と大幅に増加した。各種通信の発行も定期的に行なわれ、学年通信、生活指導部便り、進路便り、保健便り、図書館便りなどを継続して発行した。今年度も全国・関東大会出場部活の応援・紹介ポスターを作成し、地域各所に掲示させていただいた。この結果、地域の方々からたくさんの激励をいただいた。生徒にとっては、活

動を支える多くの力があることを学ぶ機会をいただき、感謝している。

図書総務部を中心とした募集対策活動も組織的取り組みが定着した。校内での説明会と合同説明会、塾主催の説明会などあわせて、説明会参加人数は、1800組であり昨年度より増加した。平成28年度定員は臨時増学級の影響で8クラス320名となったため推薦倍率4.0倍、学力検査倍率は1.2倍となった。文化・スポーツ等特別推薦については中学生に浸透し、応募者の多くは事前に体験入部にも参加している。体験入部では延べ200名以上の参加を得た。本校での部活動に大きく期待をかけていることが理解できた。

「奉仕」における地域との連携も定着した。地元公民館での夏のイベントでは和太鼓、ダンス、フォークソング、家庭科部などの発表や交流が恒例となった。また老人施設での交流や吹奏楽部の演奏会、生徒会等による特別支援学校との交流も続けている。今年度も吹奏楽部や陸上競技部が中心となって東大和市と密接に連携することができたことにより、地域に愛される学校づくりを推進することができた。

学校運営連絡協議会では、本校の課題である学力の向上や自転車マナー向上等への具体的ご意見をいただいた。各回の協議会では、情報と意見の交換が行われ、学校教育の充実につながる貴重な提言をいただいた。協議委員の方々の本校への強い期待感が伝わってきた。今後も一層の定着を図っていく。

4 学校運営・組織体制の現状と課題

教職員の理解と協力を得て、学校管理運営規程に基づく原則的な学校運営が行われている。今年度は、目指す学校の姿実現に向けての5つの重点的取り組み目標を示し、これを共有しながら、学校運営を推進した。予算編成は、経営企画室と連携し、中間的に内部評価を行って次年度の重点課題を明らかにしながら行っている。

また、今年度も経営企画室と一体となった学校経営を推進するために、経営企画室職員に対して学校説明会で使用する学校紹介ビデオの研修やICT機器を活用している教員の授業参観を実施した。また、都民サービスの視点に立った窓口業務の推進を目標にしたが、学校評価アンケートによる保護者への「学校の電話や窓口での対応はよいですか」に対する肯定的回答は73%であった。

次年度も組織としての機能をより活性化させるとともに、教職員一人一人が学校運営を支える一員という意識を発揮できるように工夫していく。一人一人の教職員が課題を主体的に捉え、「一つ上の東大和に」「もっと生徒のために」という思いを一つにし、組織的な学校運営を円滑に推進していく。

5 次年度以降の課題と対応

経営計画のもとに全教職員の努力により、各課題に対して、組織的または個別の取組を継続的に推し進め、学習面、部活動、進路実現等においては昨年度以上に大きな成果をおさめることができた。特に体力、部活動においては東京都のトップクラスの成果を達成することができたことから一定の水準に達したと言える。

28年度はこの成果をいっそう定着させながら進路実現の達成に向けて更なる学習習慣の定着と学力の向上を図る段階に来ていると考える。今よりも一つ上のステップに向けてレベルアップする時期に来ている。方向性としては行事や部活動に積極的に取り組ませ、生徒の人間力をさらに高めていく。学力の向上については、生徒自らがその必要性に気づき、実践していくため、学力スタンダードを基に教科主任を中心に学年と教科会がさらなる連携を図りながら組織的に取り組んでいく。生徒自らが主体的に考えることができるようにさせるための活動に取り組んでいく。生徒自らが主体的に自己の進路を考え、進路選択の力を高めていくことのできる学校全体のキャリア教育をさらに充実させることも課題となる。また、新教科が実施されることから社会や他者、自然・環境とのかかわりの中で共に生きる自分への自信を高めさせ、豊かな心や健やかな体の育成に向けた取り組みを進めていく。さらに、老朽化した施設・設備の維持管理と改修への要望のとりまとめは重要課題である。学校評価からも分かるとおり、設備の充実を求める声が多いへん多く、部活動に真剣に取り組む生徒からの切実な思いと受け止めている。

教職員全員が東大和とそこに学ぶ生徒の未来に向けて今何が必要かを見つめ、教育者としての使命感をさら高めながら、今日的課題に対応していかなければならない。そのため、OJT等を活用しながら、学習指導や生活・進路指導の力はもちろんのこと「外部との連携・折衝力」「学校運営力・組織貢献力」等の力も高めていく。今後も、全教職員が学校運営と学校教育上の課題を主体的に受けとめ、自己革新力にあふれた学校経営を進めていく。

6 数値目標とその達成状況

数値目標の過去3年間の達成状況と27年度の目標・実績						
		24年度	25年度	26年度	27年度目標	27年度実績
教育課程	東大和での高校生活に満足している生徒	90%	93%	93%	85%	88%
	自らが希望する進路変更以外の中途退学者数	0	0	0	0	0
学習指導	長期休業中補習・補講講座数	46 講座	40 講座	49 講座	42 講座以上	41 講座
	生徒の授業満足度	90%	87%	79%	85%以上	79%
	補習・補講についての保護者満足度	94%	65%	63%		48%
	保護者の授業満足度	92%	81%	81%		82%
	ICT 授業活用の教科	8 教科	全教科	全教科	全教科	全教科
	読書感想文コンクール提出者	91%	99%	99%	100%	99%
	漢字検定準2級以上	33 名	26 名	12 名	20 名以上	9 名合格
	英検準2級以上	25 名	16 名	7 名	20 名以上	13 名合格
	図書貸し出し数		2255 冊	3768 冊	2300 冊以上	4960 冊
生活指導	生活指導のきまりについて理解している生徒の割合	92%	95%	93%	85%以上	90%
	生活指導のきまりについて理解している保護者の割合	%	96%	96%		94%
進路指導	卒業時の進路決定率	91%	93%	90%	100%	90%
	本校の進路指導へ生徒満足度	88%	89%	90%		86%
	本校の進路指導へ保護者満足度	72%	73%	76%		72%
	国公立、早慶上智現役合格者数	0 名	1 名	1 名		3 名
	MARCH現役合格者数	6 名	9 名	8 名	10 名以上	20 名
	成成明武、等現役合格者数	名	名	名	名以上	32 名
	日東駒専現役合格者数	40 名	49 名	68 名	35 名以上	48 名
	大学センター試験志願者数	140 名	131 名	136 名	120 名以上	165 名
	公務員・就職進路決定率	100%	100%	100%	100%	100%
特別活動	学校行事生徒満足度	89%	89%	87%	85%以上	82%
	学校行事保護者満足度	92%	93%	91%	85%	89%
	部活動都ベスト16の数	8 部	9 部	7 部	6 部	8 部
	全国・関東大会出場部数	4 部	4 部	4 部	4 部	10 部
健康づくり	地域清掃実施回数	3 回	2 回	2 回		2 回
	清掃・整備についての生徒満足度	63%	66%	60%		58%
募集 広報活動	学校説明会参加人数	2396 名	1662 名	1709 組	1600 組	1800 組
	推薦選抜倍率	4.67 倍	4.27 倍	4.71 倍	3.5 倍	4.03 倍
	学力選抜倍率	1.36 倍	1.34 倍	1.43 倍	1.3 倍	1.24 倍
		24年度	25年度	26年度	27年度目標	27年度実績

部活動（27年度の主な成果）		
陸上競技部…全国高等学校学校総合体育大会3種目出場 全国高等学校陸上競技選抜大会出場 日本ジュニア室内陸上競技2種目出場 日本ユース陸上競技選手権大会2種目出場 関東大会（15年連続）6種目出場 関東新人大会5種目出場 吹奏楽部…日本管楽合奏コンテスト全国大会 優秀賞 ダンス部…夏の日本高校ダンス部選手権全国決勝大会出場	女子テニス部…関東公立高大会出場 東京都ダブルスベスト12 東京都秋季庭球選手権大会団体優勝 女子ソフトボール部…関東公立高大会出場 東京都ベスト8 男子ハンドボール部…東京都ベスト4 東京都公立高大会優勝 女子ハンドボール部…東京都ベスト8 東京都公立高大会優勝	野球部…春季大会東京都ベスト16 秋季大会本大会出場 サッカー部…全国高等学校選手権東京都2次予選出場 男子バドミントン部…東京都ベスト13 男子バレーボール部…東京都ベスト32 女子バレーボール部…東京都ベスト32 男子バスケット部…東京都ベスト32